

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！



2017年  
8月号

あの手この手のマークの間のSは、solution(解決)のSです。

第121号 2017年8月10日 大和市民活動センター 拠点やまと発行



【市民活動にこの人あり】第17回  
「地域と市との協働『のりあい』」の  
事務局長を務める入澤牧子さん。



**ふれあい窯陶芸クラブ賞『みんな大すき 虫のなかま』**

2017年度の表紙は、やまと国際フレンドクラブ主催のやまと国際アートフェスタ入賞作品を掲載しています。第9回(2016年)のテーマは「世界の子どもたちへ」です。

●ロルダン アロン(ペルー)／福田小6年 ※学年は受賞時

この絵『みんな大すき 虫のなかま』は、仲良しの虫たちが集まって、みんなですもうをとろうとしている場面です。今回『ふれあい窯陶芸クラブ賞』がとれて、とてもうれしかったです。ありがとうございました。

**「このゆびとまれっ！」オリエン開催しました。**

毎年恒例の中高生の夏休みボランティア体験「このゆびとまれっ！」。そのオリエンテーションを7月20日(木)に当センターで開催しました。

当日は8つの学校から中学生2名(男子2名)、高校生19名、(男子7名、女子12名)、計21名の参加がありました。多くの受け入れ団体から熱い呼びかけがあり、みんな熱心に耳を傾け、その話を聴いただけでも刺激を受けていたようです(写真上)。

オリエン終了後は、団体毎のブースに分かれ個人相談受付会(写真下)。8月1日現在24人から延べ62回のボランティアに参加表明がありました。

「このゆびとまれっ！」の試みは、あくまでもきっかけづくりに過ぎません。これを機に、今後継続的にボランティア活動に参加してくれる学生が、少しでも増えていくことを、当センターも受け入れ団体も願っています。







熱弁を振るう  
なないろ畑代表の片柳義春さん



なないろ食堂は、出荷場・販売所・居場所など多様な顔を持つ。

# 居場所としての なないろ畑

～「なないろ食堂」が目指すもの～ 【第76回共育セミナー報告】

去る7月8日(土)に、大和市居場所見学会の第1回として、なないろ畑出荷場を改装して立ち上げた「なないろ食堂」を訪問し、代表の片柳義春さんにお話をうかがいました。その内容の一部をご紹介します。



なないろ食堂は  
薪ストーブのあるアットホームな居場所

## ◆CSA農業とは

2003年、46歳のときになないろ畑を立ち上げた。低収入や労働力不足から、生業としての農業には限界を感じている。しかし、農作業を手伝う協力者に地域通貨を労働時間に応じて分配する方法がうまくいき、会員制の地域支援型農業(CSA=Community Supported Agriculture)を始めた。消費者参加型農業として、消費者・支援者に支えられている。会費は農作物購入代ではなく経営分担金と思ってもらいたい。

## ◆さまざまな作業がある

農業には単純作業も複雑な作業も数多くある。そのため、高齢者や障がい者、就労を目指す人など、それぞれにあった作業を振り分け、役割を持ってもらうことができる。また、市の生活援護課からの依頼もあり、障害者や生活保護受給者就労体験も実施しており、地域の居場所となりつつある。CSA最大の成果は、実は有機栽培物ではなくコミュニティ。

## ◆高齢者の居場所として

母が骨折し足腰だけでなく記憶も弱ってきた。この食堂で母にもできることをやらせたく考えている。子ども食堂も必要だが、高齢者は、認知症予防や足腰を動かす訓練にも役立つ。高齢者に昔ながらの家庭料理を作ってもらい、高齢者の居場所にしていきたい。孤食の高齢者も子どもも集まってほしい。

## 「出張！ボランティア総合案内所」を開設しました。

7月27日(木) イオンモール大和

10～15時で開設し、多くの方がボランティア募集掲示板に目を止められました。個別相談には、10代から80代まで、幅広い年齢の方が相談をされ、早速登録し、活動に参加された方もいました。



## 【予告】 次回の「大和市居場所見学会」

居場所見学会の第2弾(第77回共育セミナー)として、6月にオープンした南林間の「あかり食堂」を訪問します。

日時：10月28日(土) 14:00～16:00

場所：マチツナガル あかり食堂(南林間駅から徒歩3分)  
大和市南林間1-6-1 TBCビル八番館 1F

会費：500円(ワンドリンク付)。※貸切で実施。

備考：終了後、希望者はそのまま交流会(飲食実費)。

募集・詳細は、次号でご案内します。

## お気軽に！ 定例相談日

- ◆市民活動相談=8月14・28日(月)・9月11日(月) ※毎月第2・4月曜の10～17時
  - ◆ボランティア相談=8月12・26日(土)・9月9日(土) ※毎月第2・4土曜の10～17時
  - ◆パソコン相談=8月15・29日(火)・9月12日(火) ※毎月第2・4火曜の14～17時
- ※予約不要ですが、事前に電話予約していただいた方が、お待たせすることもなく確実です。



# 全国でも唯一無二の「のりあい」【市民活動にこの人あり】第17回

## 地域と市との協働「のりあい」事務局長 入澤牧子さん

世にコミュニティバス（以下コミバス）多しといえども、大和市の「のりあい」ほどユニークな事例は寡聞にして知らない。運営だけでなく運転者まで市民が担い、運賃を取らず無償で、しかも土日祝日を除く毎日、18便も定期運行している。まさにコミバスに匹敵する公共交通をボランティアが担っているのだ。これは全国的に見て、唯一無二と言って過言ではない。10人乗りワゴンに添乗者が必ず付き、市役所・市民病院と西鶴間地域を1周37分でほぼ正確に巡回している。

この発端は2008年。県とNPOとの協働による3回の地域交通創出学習会が開かれた。コミバス導入の説明会と思ったのか1回目は定員を越える人が集まったが、自分たちで生み出す話と知り2回目の参加者は激減。3回目に初参加したのが入澤さんだった。彼女が参加していなければ話はここで終わっていたに違いない。しかし、西部連合自治会長の「応援するよ」という声を頼りに、関係7自治会参加にこぎつけた。

東京生まれで中学教師をしていた入澤さん。みんなで一緒に何かを育てていくことが好きだった。36年前大和に来てからは、不登校児の学習支援や居場所づくりや、子どもたちの食への関心から、遺伝子組み換え食品(GM)を学校給食に使わない活動をするなど「おかしい、こうあってほしい」ということがそのまま自ら動かすにはいられなかった。GM防止活動は、いまでは国際有機農業映画祭という形に発展している。介護保険導入時には、地域の実態にあわせたプランづくりという触れ込みから「市民のための介護保険をつくる会」を結成。最期まで安心して住み慣れた地域で暮らせることを目標に、毎月勉強会を続け、施設見学なども実施している。

議論を始めたときは「日に数便でいい」という声もあった。しかし、入澤さんは何が必要とされているかを突き詰める。外出支援が目的ならそのニーズに極力応えるものをと、関係者が最初から実質コミバス並の便数を提案。この試みは当たり、最近5年では年に1万6000～1万8000人の利用がある。

協働事業として、車両の提供・保管・修繕・燃料は現在市が負担しているが、運転者・添乗者への謝礼ほか運営費はすべて「のりあい」の負担だ。当初2年は車内に募金箱を置き賄っていたが、登録や許可を必要としない無償運送の関係上問題があることから廃止。その後は利用者の賛同支援金を中心に、参加自治会の協力金などを当てている。支援金は関係者が毎月利用者宅をまわり集めているというから頭が下がる。

「のりあい」は、添乗員がいることで、乗降の介助に加え、交流促進にも大きな役割を果たしている。車外でも毎月昼食会や編み物教室（月2回）まで開かれ、単なる移動手段を超え、顔の見えるコミュニティそのものになっている。ここにこそ「のりあい」の魅力と秘密があると感じた。



▲左から運転者、入澤さん、利用者の方、添乗員のみなさん。



## イベント・募集情報



### 地域福祉活動見学会 参加者募集 市内福祉施設をバスで見学しませんか？

市社会福祉協議会の会費の使いみちや地域ネットワークについて学びながら、市内福祉施設を見学します。昼食付です。

日時：9月13日(水) 10:00～15:30  
集合：大和市保健福祉センター 4階視聴覚室 10:00  
見学先：①大和市社会福祉協議会概要説明  
②特別養護老人ホームひまわりの郷見学(昼食試食)  
③メディケアセンター大和見学・福祉機器体験  
参加費：300円(昼食代の一部として)  
締切：9月6日(水) ※初参加・市内在住優先  
申込：大和市社会福祉協議会総務課 TEL 046-260-5633

### 来年3月に一緒に歌う合唱団員募集 「静かな空を返せ」の市民合唱

「静かな空を返してほしい」「もう落ちないで」の願いを込め生まれた組曲「湘南の風に乗って」。来年3月10日(土)にシリウス大ホールで開くコンサートと一緒に歌う仲間を募集中。まずは「キックオフの集い」(下記)にお越しください。

日時：9月16日(土) 13:30～16:00  
会場：文化創造拠点シリウス 3階マルチスペースB  
会費：9月から月2回の14回ほどで計6000円(レッスン料)  
主催：大和みんなでつくる平和コンサート実行委員会  
問合せ：携帯 090-2667-5085(永山)  
申込：TEL & FAX 046-272-0103(平原) yu@y.email.ne.jp

### コラム 市民活動のキーワード④

金子郁容『ボランティア もうひとつの情報社会』(岩波新書/1992年)は、ボランティアの魅力と本質を的確に表現した書としていまや古典的な本です。著者は「ボランティアは『助ける』こと『助けられる』ことが融合し、誰が与え誰が受け取っているのか区別することが重要ではないと思えるような、不思議な魅力にあふれた関係発見のプロセスである」と書いています。簡単に言えば、他人事が自分事になるような状況とも言えそうです。ただ、自ら進んでボランティア活動を始めた人は、その後もさらなる活動を

### 自発性パラドックス

期待され、傍観者の負担まで負わされ、自らをつらい立場に追いこんでしまうことがあります。著者はこれを自発性パラドックスと名付けました。まさに「言い出しっぺの損」もこれ。ただ、著者は必ずしもネガティブには捉えておらず、むしろ、そのような傷つきやすくて脆い状態(バルネラビリティvulnerability)に身を置くことで相互依存的になり、相手とつながり合うことの価値を認識する点にボランティアの可能性を見い出しているのです。まだ、読んでいない方は、是非ご一読ください。気づき満載のオススメ本です。



＜出演しました！＞ 録音CDが大和市民活動センターにあります。

第296回◆7月4日放送分

ママスク大和

～地域のママが誰でも集えるコミュニティ～

幼稚園に入る前のお子さんをもつママさん同士がつながることで、不安や悩みを出し合い共感しリセットできる場をつくりたいと思い、ママのコミュニティを作っています。ママが孤立しないように、地域のママが誰でも集え、楽しく情報交換できる場をつくる活動をしています。ママがおしゃれをして、おしゃれなカフェで美味しいものを食べながら、子どものことだけでなく、自分が主役になって話せる「ママのお茶会」を毎月開催しています。

その他にママの体のメンテナンスとしてアロマオイルを使ったセルフマッサージやヨガ、ベリーダンスなども実施しています。親子で楽しめるリトミックや絵本の読み聞かせ、公園でシャボン玉遊び、お花見、ハロウィン、クリスマス会なども企画していきます。ママの学びの場として、ネパールの家庭料理教室では、離乳食にも使える豆のスープづくりも学びます。個性に合わせて楽しく、すっきりトイレトレーニングの声掛け講座、保育園の選び方の講座なども企画しています。

第297回◆7月18日放送分

引地川かわくわり実行委員会

～引地川を外来魚から救え！～

引地川の清掃活動を始めて今年で28年。引地川がどぶ川だったころ、市内に源流があるのできれいにしたいと思って始めた活動です。「川を知りたいければ川に入ること」と専門家のアドバイスを受けて入ってみたところ、川は臭くてヘドロだらけで、缶を拾うと真っ黒でヒルだらけ。かわくわりで履いた靴はもう履きたくない状態で、捨てていました。ふれあい広場に自然護岸ができたことで、草が生えるようになり、生き物が蘇ってきたのです。

引地川には湧水があるので、清流を好むアブラハヤなど、8種類の魚が生息しています。ところが、2010年ごろから関西に住む肉食のドンコが姿を現し、ようやく増えてきた引地川の魚の種類が激減。家の水槽で引地川の魚を飼ってみたところ、10センチ以上のアブラハヤやメダカなどもいたのに、最終的には一番大きなドンコとザリガニだけになってしまいました。この現象が引地川の中で起きているのだなと思いました。そこで、今年のテーマは「SOS！引地川を外来魚から救え！！」としました。

8月の出演

第298回◆8月1日放送

大和アマチュア無線クラブ

1966年設立の同クラブは、大和市と災害協定を結んでいます。

第299回◆8月15日放送

サウンドテーブルテニスクラブ

視覚障害者とその家族との親睦と大会出場を目的に活動しています。

第300回◆8月29日放送

柏木学園高等学校 高校生

この夏のボランティア体験に参加した感想を話してもらいます。

※FMやまとは、ネットにつながったPCなら、世界中どこでも聞けます。→FMやまとホームページの「ネットラジオ」をクリック！

★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆



スタッフのつぶやき



◆野村萬齋主演・演出の「子午線の祀り」を観た。木下順二による平家物語が題材の戯曲。美しい語りと荘厳な響きの群読が圧巻。スタンディングオベーションの客席通路を出演者が退場。最終回ならではの感動だった。石川

◆このところ実家に行った夜にポンポンと花火の音が聞こえる。外に出て空を見回してみる。かつては川辺の桟敷で見上たり、家の窓からも観ることができた。この夏は音でスターマインやナイアガラを鑑賞している。関根

◆“旅行会”メンバーがフリースペースで会議前に雑談。正式には「出雲大社」は“いづもおおやしろ”と呼ぶそう。全国にある分社は、私たちが言っている“いづもたいしゃ”です。雑学辞典の様なセンターです。望月

◆始まりました。中高生ボランティア体験「このゆびとまれっ！」。最初に参加する中高生は消極的で、あまり声も出していなかったのに、活動を通して会話の回数が増え、眼が輝くのを見ると頼もしい。櫻井サ

◆アフリカ南部のナミブ砂漠にウエルウィツチアという奇妙な植物があり、たった2枚の葉をカールさせながら延々と伸ばし続け、1000年以上生きるらしい。あまりにも変わっている為か和名はキソウテンガイ。中山

◆梅を干しそびれている。梅雨明け前の晴天続きに干せばよかったと思って後の祭り。その頃は忙しく在宅率が低かったと慰める。「干す」＝「梅雨明け後」の思い込みもあった？ まあ、こういう年もあるさ。櫻井み

◆新しく住み始めた街の夏祭りの賑わいは、大型店舗がたち並ぶ暮らしが長く続いた私には、とても新鮮に映る。入道雲、耳に入る蝉の声とともに、まさに夏の入り口に立っていると実感。辺見

◆このゆびとまれっ！オリエンテーションの様子を見に行きました。中高生の不安と期待が入り混じった表情を見て、自分が学生だった頃を思い出し懐かしく感じました。時間が経つのは早いですね(笑)。市民活動課/保田

◆雨も上がり無事終了した横浜旭ジャズまつり。片づけで大変なのは数百枚のコンパネ。野球場の原状復帰のため、車両進入時は養生として敷くのがお約束。移動に加え泥落として一苦労。多数のボランティアに感謝！徳留

大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手この手」第121号 発行日：2017年8月10日

発行：大和市民活動センター 拠点やまと

大和市民活動センター <開館：月～土 9:00～18:00>  
〒242-0021 大和市中中央 1-5-1 (大和駅南口より徒歩2分)

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788

E-MAIL:yamato@ar.wakwak.com

※祝日も9:00～18:00で開館しています。

URL:http://www.kyodounokyoten.com/